

つなぐれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉



7

月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

依存から柔軟な対応へ

校長 荒海 透

サッカーの世界カップでの日本代表チームの活躍に沸いた6月でした。日本のスポーツ界が世界で活躍しているという話題は以前の学校だよりでも触れたところですが、今回のサッカーワールドカップに向けた日本のチーム作りは大変意味深く、勉強になることがありました。チームキャプテンとして活躍した試合もあった堂安選手の「このチームは、チームとして成熟している。」という言葉がそれを象徴していると感じました。監督や選手たちの話からわかることは、日本代表チームが得意の戦術だけを磨き上げてきたのではなく、様々な戦術を試し、相手の戦い方に合わせて柔軟に対応する力をつけてきたということでした。監督やコーチからの指示がなくても、試合の途中やハーフタイムの間に選手同士がコミュニケーションをとり、自在に戦術を変えて対応することができるチームが「チームとして成熟している」ということのように感じました。そして積み重ねてきたものをしっかりと結果に表している日本代表チーム、本当に素晴らしいと感じました。

一方で、もう一つ気になる話題がありました。生成AIの活用に関する話題です。一つ目はノルウェー政府が小学校での生成AIツールの使用を原則禁止にする方針を発表したことです。読み書きや計算といった基礎学力の低下を防ぎ、教育現場での基本技能の習得を優先させるという内容でした。日本ではこれから本格的に教育現場にも導入される見通しとなっていますが、先進国では教育現場における過度なテクノロジー依存を見直す動きが始まっているというわけです。二つ目は大学生が外国語授業の課題提出にあたり、AIで生成した翻訳文などをそのまま使って提出した大学生が36%に上がることが分かった、いわゆるコピペ問題です。この問題について獨協大学の木村教授は「AIを有効活用すれば語学力が向上するケースもあるが、コピペでは絶対に身に付かない」と呼びかけています。この2つの記事を目にしたとき、ノルウェー政府が小学生に対して危惧していることが、日本の大学生に表れているような感覚になりました。

和泉小学校においても、タブレットを活用した授業が当たり前のように見られるようになりました。宿題についても横浜市一斉に導入されたAIドリルを使用することになりました。世の中の変化に対応していくのであれば、この流れは変えることはできず、ますます加速していくことが考えられます。しかし、このサッカー日本代表の活躍とコピペ問題に触れ、自己決定力の大切さを改めて感じました。生成AIの活用自体が悪いのではなく、すべてを依存し、委ねてしまうことの危険性を理解しなければなりません。あふれるほどの情報に対して、自分の意思で判断し、状況に合わせて柔軟に対応する力が求められているのではないのでしょうか。本校においてもタブレットの有効活用を今後も考えていきますが、自分の力で「課題を発見する力」「問題解決に向けて見通しをもって粘り強く取り組む態度」を育むことができるよう、支援を続けていきたいと思えます。